

研究開発活動・知的財産活動

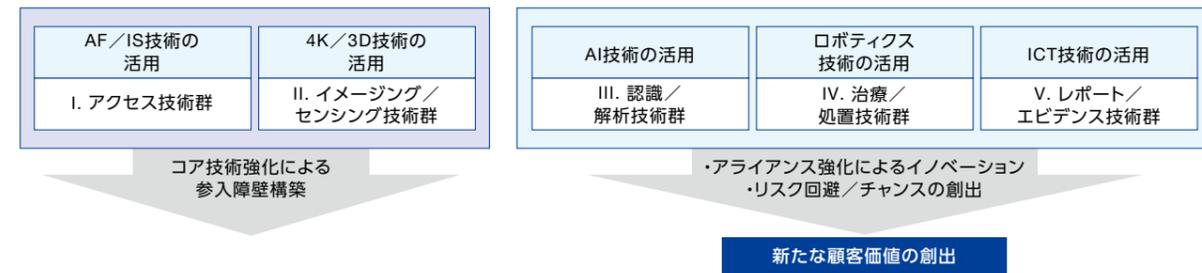
オリンパスの全商品化を技術で支え、さらには10年先を見据えた新しい技術を開発・推進し、プロダクト・イノベーションを図るオリンパスの技術開発。目指すところは、新しいアイデアと技術で夢を形にして人々の豊かな明日を育むことです。

研究開発活動

研究開発の基本的な考え方

当社は内視鏡や顕微鏡、デジタルカメラ等、自社で開発した製品を通じて、早期診断・低侵襲治療といった価値を顧客に提供しています。そうした顧客価値を生み出す差別化技術を「コア技術」と呼び、それらは当社の基盤技術である光学技術、電子映像技術、精密技術、生体基盤技術から生み出されています。当社の技術開発部門では、将来にわたって顧客の期待以上の価値を追求し、常に市場で競争力のある製品・サービスの提供を目指し、コア技術の維持・強化や創生に取り組んでいます。

顧客価値を生み出すワークフロー視点でまとめたコア技術群



研究開発支出に対する考え方

当社が真のグローバル・メドテックカンパニーとして飛躍していくために、競争力のある製品を迅速に市場に提供していくことが重要です。従来の自前主義型研究開発から、アライアンスやオープンイノベーションによって必要技術を獲得する取り組みを積極的に進めることで、開発スピードと効率性を向上させ、開発期間の短縮化や全体コスト圧縮を実現してまいります。加えて、ROIをベースに研究開発テーマの優先順位付けを行い、研究開発支出の適正化を図ります。

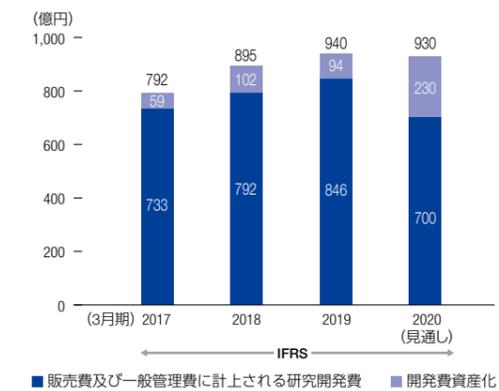
2020年3月期は販売費及び一般管理費を2018年3月期レベルに圧縮することを目指しており、研究開発の効率化も重大なポイントとなっています。IFRS適用下では損益計算書の研究開発費が、開発中の製品から資産化が始まるため、ライフサイクルマネジメントを含む資産化開発費の管理も重要であり、CTOの責任下で資産化の進捗をモニタリングしています。

オープンイノベーション[X INNOVATION]の取り組み

イノベーション戦略の立案遂行を行う組織「イノベーション推進室」を中心に、医療業界全体の環境分析やリスク分析等を行い、将来的に実現したい未来を3つ発表しています。例えば、内視鏡検査のワークフローにAIやICT、ロボティクス技術を活用し、医師の負担軽減やプロセスの容易化をサポートしていきたいと考えています。この一連の活動を「X INNOVATION (クロスイノベーション)」と呼んでおり、当社だけでなく、オープンイノベーションで他社と協業する形で進めてまいります。今までにない発想、大胆な戦略・施策のもと、新たな技術革新に乗り遅れないイノベーションへの取り組みに挑戦していきます。

WEB クロスイノベーション:
https://www.olympus.co.jp/technology/crossinnovation/?page=technology_crossinnovation

研究開発支出

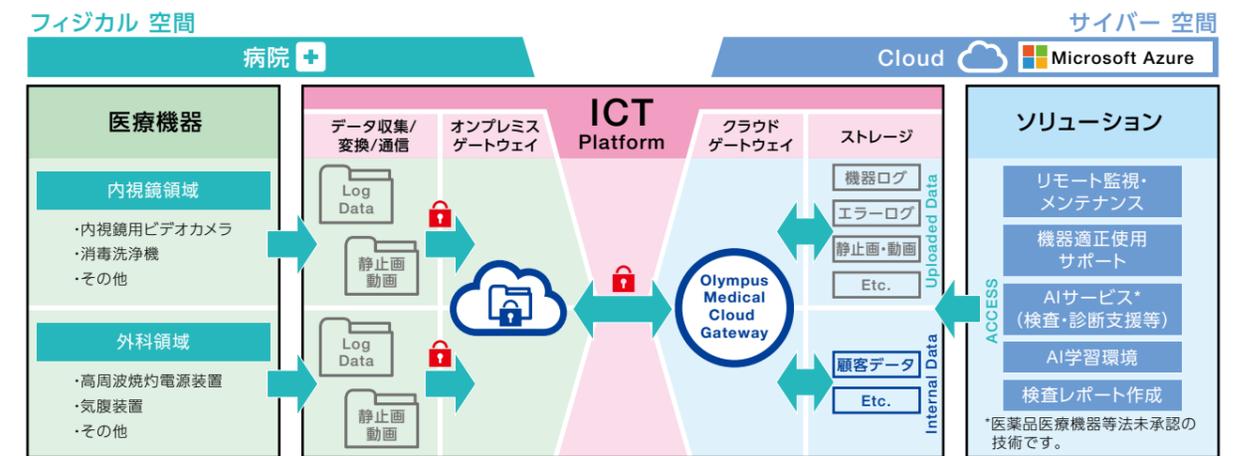


ICT-AIプラットフォーム技術戦略

当社製品にICT・AI技術を活用することにより、顧客の業務効率・満足度向上に寄与するソリューションを提供してまいります。これらのソリューションを統合して提供するプラットフォームが「ICT-AIプラットフォーム」です。

病院において、各機器を連携、情報を収集・活用できる環境を提供する予定です。また、機器のリモート監視・メンテナンス、稼働状況の高度な分析等、外部ネットワークやクラウドを活用し、継続的に各種ソリューションを高度化することで、医療従事者の業務品質の向上、効率化をサポートします。当社製品を有効活用していただくことによる収益性の強化に加え、AI等も活用した業務支援のソリューションにより、当社製品を使用するメリットを最大化します。

ICT-AIプラットフォーム医療



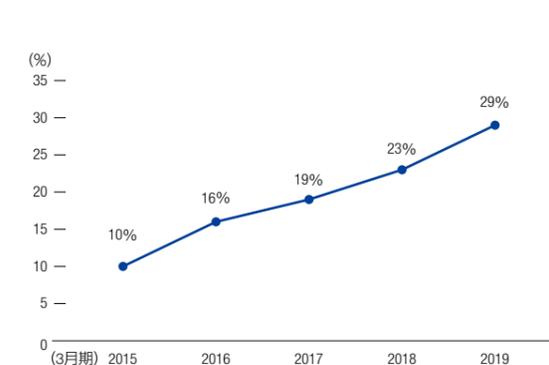
知的財産活動

コア技術知財マネジメント戦略

「コア技術知財マネジメント」では、5つのコア技術を知的財産の側面でバランスよく支えるため、自社開発技術の権利取得はもちろんのこと、外部技術等の活用も含め、より広くより強い特許網の構築や事業展開の自由度確保のための取り組みを進めています。現在、将来的な成長に向けて強化すべき技術群として認識しているIII~V群の特許出願を増やしており、当社の事業成長に沿った知的財産戦略を実行しています。

近年は、当社の戦略に照らし将来的にシナジーを生み出す新たな特許との入れ替えを進めており、保有権利の健全化と権利維持費の適正化を着実にを行うことで、当社のイノベティブな研究開発活動をサポートしています。加えて、特許出願の厳選による特許品質の向上や特許出願国の選定を進め、当社の持続的発展に必要な特許の取得を行っています。

強化すべきIII~V群の出願比率の推移



事業ポートフォリオ別保有件数比率

